



目次	
●巻頭言	1
●全公教石川大会参加報告	2
●特集	3～4
●郡市教頭会ネットワーク	5
●新入会員の声	6
●随想	7



「やりたい」「やってみよう」 を大切に

新潟県小中学校教頭会

副会長 **田中俊彦**

(新潟市立南浜中学校)

以前勤務した学校で「模型同好会」の顧問をしていた。会員5名の小さな同好会であった。ハレの場は、年1回、文化祭で自分たちの作った動画を全校生徒に披露する場面である。子どもたちは自ら「模型を使った格好いい動画をつくりたい」という目的意識をもち、楽しく粘り強く活動した。仲間と関わり合いながら、最終的に見事な映像作品を完成させた。普段は教室でどちらかというとおとなしく目立たない存在の子どもたちが、他の生徒から称賛され、認められた。人は「好きなこと」「やりたいこと」に主体的に取り組み、自分の力を発揮し、成長する。

では「好きではないこと」「やりたくないこと」にどう取り組ませるのか。私が新採用2年目で初めて学級担任をした時の、ある生徒の言葉を今でも忘れない。それは合唱コンクールに向けて練習しているとき、私の学級は担任の力量不足からまとまりがなく、女子が一生懸命練習しようとしても、男子は歌わない。私はついにある日の放課後練習で歌わない男子たちに向かって言った。「お前ら歌え、女子が頑張ろうとしているのに何しているんだ。」その時、合唱リーダーの女子の言葉「先生が言うと雰囲気が悪くなる、黙っててください。」無力な自分に情けなさを感じると同時に「強制してやらせても、本当にいいものはできない」ことを実感した。

歌わない子をどうやって歌わせるのか、私がいきついたのが「まずは自らが楽しむ」「少しずつ賛同者を増やし巻き込む」ことであった。学級合唱曲のCDを通勤途中に聴き、全てのパートを覚える。パート別練習に積極的に入り、(音痴ながらも)一緒に

楽しそうに歌う。最初は2～3人でも、練習を重ねるうちに、1人、また1人と歌う生徒が増えていく。いつのまにか、学級全体で歌うことが当たり前になっている。みんな楽しそうに歌っている。ここまでくれば、あとはリーダーを中心とした生徒の主体性を最大限に尊重し、必要かつ簡潔なアドバイスをするだけで、学級は素晴らしい合唱をつくりあげていく。

今、教頭という立場で、学校経営方針を具現化していく際にこの経験を思い出すようにしている。個々の職員のもつマンパワーを存分に発揮させるためには、職員の学校経営への主体的な参画意識が必要である。「やりなさい」と指示するのではなく、教頭自らが学ぶ姿勢で、前向きに楽しそうに物事に取り組んでいく。そのようにして、職場全体の「やろう」という機運を高めていくようにしている。もちろん、その土台として、日ごろからの職員との信頼関係づくり、職場での温かい人間関係づくりが欠かせないのは言うまでもない。

今夏の全国高等学校野球選手権大会では「エンジョイ・ベースボール」を掲げる慶應義塾高校の107年ぶりの優勝が話題となった。同校ではウエイトトレーニングにおいても、一律のトレーニング方法ではなく、選手の体格に合わせた個別のトレーニングが行われているようだ。強制してやらされるのではなく、子どもも職員も主体的に取り組める学校運営を行い、教育活動の活性化、ひいては「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育てていきたい。

全公教石川大会参加報告



全国教頭会 石川大会に参加して

上越市立大潟町小学校

猪田 謙

まずは、石川県教頭会に至れり尽くせりの心で迎えていただき、とても快適な2日間を過ごすことができました。石川県は、受付や司会者、コーディネーター、発表者など、女性教頭が前面に出ていて、女性教頭の割合がかなり高いと感じました。

1日目のシンポジウムでは、我々が新潟県出身の田村学氏、著書で有名な住田昌治氏、石川県の有名な温泉・加賀屋グループ女将の長谷川明子氏、文科省出身というバリバリなキャリアをもつ40代女性の加賀市教育委員会教育長・島谷千春氏の4人が登壇されました。それぞれの立場や見方で職場の人間関係づくりや人材育成についての話がありました。

午後は、金沢21世紀美術館館長の長谷川祐子氏の講演でした。世界の美術館のキュレーターを経験され、その経験を生かしながら美術館の展示を工夫しているそうです。また、「アートの民主化」を目指し、地元の人とタイアップした展示づくりをすることで、誰でも気軽に立ち寄れる、人が集まる美術館にしたいとのことでした。

2日目は、分科会で提案発表と協議が行われ、私は「教育環境の整備に向けた教頭の関わり」というテーマに参加しました。北海道、石川、埼玉、東京、山口と同じグループになり、テーマに関する課題について協議をする中、それぞれの地域によって「危機管理」の対象が大きく異なることが分かりました。例えば、北海道旭川市では、熊やイノシシの出没が最重要課題（日常茶飯事）で、地震はほぼないなど、それぞれの地域で特有の苦労があると実感しました。

私が2日間の研究大会に参加して一番うれしかったことは、他の都道府県の教頭先生方とたくさん話げできたことです。大変話が盛り上がり、2日間でそれぞれの地へ帰る（現実に戻る）ことが嘘のように感じるほど親近感をもちました。

今回、全国公立学校教頭会研究会石川大会に参加するという貴重な機会をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。



全公教 石川大会に参加して

長岡市立旭岡中学校

佐藤 壮

とにかく「あつい」2日間でした。今年度も全公教石川大会は「参集型」と「オンライン型」を併用した「ハイブリッド型」による開催となりました。

大会主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」、サブテーマ「ふるさとに誇りをもち 未来を切り拓く心豊かな人づくりを目指す これからの学校運営の推進」をもとに、講演を聞き、意見交流し、議論を深めることができました。

1日目のシンポジウムでは、田村学氏（國學院大學教授）をコーディネーターに、住田昌治氏（湘南学園学園長）、長谷川明子氏（加賀屋グループ女将）、島谷千春氏（加賀市教育長）の3人のシンポジストによるシンポジウムが行われました。仕事も学習も楽しくなければいけない。私たちは、学校に関わる人すべて（自分も）を幸せにする「ハッピークリエーター」である。失敗を恐れずに挑戦しなくてはいけない。ただし、報告・連絡・相談の「ほうれんそう」は重要である。子どもたちに学ぶ意味と希望を与えなければならない。PDCAサイクルはもう古く、どんどん新しいことを考え検討しなければならないなどのことが話し合われました。記念講演会で、長谷川祐子氏（金沢21世紀美術館館長）は、「自分で感動したものを子どもたちに提供していくことが我々の大切な役割ではないか」と講演されました。

2日目の特別Ⅱ分科会の講演1では、北方喜旺丈氏（作曲家）の「教育における音楽の力」即興演奏を織り交ぜての講演。講演2では、飯山暁朗氏（メンタルコーチ）の「人を伸ばすメンタルコーチング」として、人を伸ばす3つの法則などを具体事例をもとにした講演を聞きました。

2日間とも気温が高く、「暑かった」です。しかしそれ以上に講演された石川県の人たちの、教育や芸術に対する「熱さ」を感じる2日間でした。日ごろの学校で会えない人たちの話を聞き、他県の教頭先生たちと議論ができ、充実した2日間となりました。

特集

コミュニティ・スクールの取組紹介



田上コミュニティ・スクールの取組

田上町立羽生田小学校

渡部 武志

田上町では、平成22年より「田上の12か年教育」を策定し、「田上の子は田上で育てる」の理念のもと、幼小中、家庭、地域が一体となって教育を進めている。目指す子どもの姿の実現のため、教育活動を下支えする基盤が「田上コミュニティ・スクール」である。

1 地域が教育活動に携わる体制づくり

(1) 学校運営協議会の設置と運営

「地域と共にある学校づくり」を目指し、年間3回の運営協議会を設定している。各回とも、学習参観日に設定し、子どもの学びの姿から協議を行っている。

(2) 学校地域コーディネーターとの連携

学校地域コーディネーターが、各学年の校外学習に同行し、子どもの学び支援を行っている。また、新型コロナウイルス感染症5類移行を受け、近隣の福祉施設訪問が計画されるなど、活動の幅が広がりつつある。

(3) 学校支援ボランティア活用の取組

学校地域コーディネーターと協働し、地域人材活用の方途を探ったり、学校支援ボランティアへ「いきいき県民カレッジ『成果活用促進事業』(新潟県生涯学習推進センター)」の参加を働きかけたりしている。

2 取組の持続化を図る

学校地域コーディネーターを活用し、地域に学ぶ学習活動を行ったことで、探究的な学習が行われ、子どものふるさとの思いを高めることができた。また、教職員が地域と協働することの良さを実感することができた。

「田上コミュニティ・スクール」の継続と充実のために、今後、以下の2点が課題となっている。

(1) 連携のあり方の評価、改善

(2) キャリア教育と関連した取組の充実

今後これらの課題を改善し、目指す子どもの姿実現のため、地域とともに取り組んでいく。



我が校のコミュニティ・スクール2年目の取組

魚沼市立宇賀地小学校

井口 幸太郎

昨年度より当校のコミュニティ・スクールの歩みが始まった。全てが手探りで戸惑いもあったが、地域からのバックアップは整っていたため何とかスタートさせることができた。

今年度は、新たに3名を加え学校運営協議会員10名、コーディネーター1名、学校職員2名、計13名で宇賀地小学校コミュニティ・スクール学校運営協議会がスタートした。

地域と進める様々な活動を教育活動に位置付けるため「宇賀地小学校コミュニティ・スクールランドデザイン」を作成し、整理統合した。また、地域学校協働活動を「①子どもとの協働活動」「②出前授業」「③環境整備活動」の視点で整理したことで見通しがもてるとともに意味付けを明確にすることができた。

6月、1・2年生対象に「サツマイモの栽培出前授業」を開催した。地域の栽培のプロの方をお招きし、学習を深めた。そして150本のサツマイモと15kgのジャガイモの苗を植え、秋の収穫を待っている。今年度は学校畑にも植えることで、子どもがより身近に、より気持ちを込めて世話をする姿が見られた。広大な畑一面に咲く真っ白なジャガイモの花と魚沼三山。この景色は子どもたちの心に刻まれるものと思う。収穫したイモをどうするか、これから話し合いが続いていく。

2学期は、地域指導者による「天神囃子」「宇賀地小学校祝い太鼓」「大の阪」の指導、全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールに向けた「リズムダンス」練習が始まるなど活動が広がっていく。

今後、学校運営協議会の独立性を高めるとともに、会議の運営や地域の方への呼びかけなど、学校と地域のつながりを強いものにしたいと考えている。そして、地域におられる様々な方が学校の教育活動に気軽に参加できるようなシステムを構築していきたい。

特集

コミュニティ・スクールの取組紹介

「安小の子どもを守る会」を
紹介します

阿賀野市立安野小学校

柳 憲 一

当校には「安小の子どもを守る会」という組織がある。不審者等から被害を受ける事案が全国的にみられ、社会的な不安が高まった時期に、保護者・学校・地域が連携してそういった心配から在学児童を守っていく組織として、発足されたものである。

組織を構成するのは、歴代のPTA会長、校区内の地域を代表して学校評議員を引き受けてくださっていた方々、校区内の各自治会長、民生委員、児童委員、校区内各自治会の子ども会役員の方々である。

基本的に毎年、年度当初に総会を開催し、組織と年間の活動計画等を確認し、その年の活動を始めている。また、年度末にも総会を開催し、年間の活動を振り返り次の年度へ繋いでいる。

具体的な事業としては、PTA組織と連携し次のような活動を行っている。

- (1) 児童の安全を確保するために注意喚起が必要な校区内危険箇所等を「安野小学校区安全マップ」として整える。そのマップを毎年更新し、児童・保護者・地域の方々に周知を図る。
- (2) 「安野小学校区安全マップ」に示した箇所に、注意喚起の看板を設置するとともに、破損看板を交換する。
- (3) 学校の環境整備
- (4) 教育活動ボランティアの募集

新型コロナウイルス感染症の流行拡大等の状況を受け、ボランティア活動をここ数年間休止していたが、今年度は活動再開を目指して準備、取組を進めているところである。

地域に暮らす大勢の方々は、在学児童の安全や学習環境・学習活動の充実に高い関心をもち、積極的に働き掛けや事業活動を行ってくれる。保護者や地域の方々に支えられ、安野小学校の児童は、日々の学習活動等に、安心した気持ちで取り組んでいる。



地域とともにある学校づくり

～「熟議」する学校運営協議会を通して～

佐渡市立松ヶ崎中学校

加 藤 英 司

当校のコミュニティ・スクールでは、松ヶ崎小中学校を一体とし、学校を核にした地域づくりを目指した活動を推進している。

今年度、CSディレクターに、昨年度まで大学院生として松ヶ崎地域のコミュニティを研究されていた方を迎え、学校運営協議会を昨年度から1回増やし、年4回実施することとした。新しいCSディレクターとの打ち合わせの中で、1年間を通して地域や学校の課題解決に関わる取組を実践することを目指した「熟議」を取り入れた。これまで「熟議」した内容は、以下の通りである。

【第1回】

松ヶ崎の今も良いけれどもっと良くしたいところ・もっとこうなったら良いなというところ

→「熟議」を経てまとめられたテーマ

○集まる場所・声を拾う仕組みづくり

○地域資源（芸能・自然）の保存と活用 等

【第2回】

テーマの中で、委員1人1人が一番関心のあるテーマを選びグループを作る。そのグループでどんな取組ができるかを話し合う。考えた取組を、他の委員にプレゼンし、実際にできるとよい取組を決める。

→「熟議」を経て絞られた取組

○誰でも学校にきて話せるコミュニティ・ルームの設置

○「紅葉山」をもっとみんなの愛する場所に！

まずは「紅葉山」を知るツアー開催 等

今後、第3・4回で実際に取り組む活動を決めて、実践をする予定である。毎回熱く「熟議」し合う学校運営協議会の皆様の姿に、感動と感謝の思いは尽きない。

これからも、松ヶ崎の地域全体で子どもたちの成長を支える社会の実現に向けて、取組を推進していきたい。

郡市教頭会ネットワーク



小規模であることの “強み”を生かす

妙高市教頭会
会長 渡邊卓司
(妙高市立新井小学校)

妙高市教頭会は、小学校7校、中学校3校、特別支援学校1校の計11校で構成されています。県教頭会の中でも最も小さな教頭会の一つです。お互いの顔が見え、声が聞こえるよさを生かし、きめ細やかな情報交換と連携を大切にしています。

1 研修について

小規模ということもあり、小中合同で教頭会を行っています。今年度は、全体研修など、6回の研修を予定しています。その中でも、メインは上越、糸魚川両市教頭会との「合同研修会」です。9月に青山学院大学の原晋監督を講師にお招きし、組織マネジメントについてご講話をいただきました。上越市教頭会がこの研修会を企画したことから始まり、様々な方からのご支援、ご協力を得て、実現させることができました。研修会当日は、妙高の地に80名もの教頭が集いました。多くの方々とのご縁、つながりを実感した実りある研修会になりました。

2 事務職員との連携を意識した研修

事務職員との合同研修会を毎年、夏季休業中に行っています。今年度は「妙高市グループの共同実施」に関わる研修と、学校管理事務研修の二本柱で行いました。事務研修については、上越教育事務所から講師をお招きし、「内申事務」の概要と手続きについて、演習問題をしながら理解を深めました。本研修は、事務職員の業務内容や連携のあり方をよりよく理解・確認することができる、たいへん有意義な機会となっています。

3 近隣市教頭会との連携

上述したとおり、今年度は上越、糸魚川両市と連携し、合同研修会を実現させました。また、市を越えた教育課題や生徒指導上の問題等には、情報を共有したり協力したりして対応しています。

これからも、近隣同士でネットワークを密にしながら、教頭会の質と一人一人の力量を高めていきます。



いつでも支え合い 高め合う教頭会

新潟市中学校教頭会
会長 牧野剛
(新潟市立松浜中学校)

令和5年度新潟市中学校教頭会は、新潟市8区の57校・中等教育学校・附属中学校の計59校の教頭、64名で活動を行っています。教頭会のスローガンは「支え合い高め合う教頭会」「明るく楽しく助け合う教頭会」です。昨年と今年で27名の新任の教頭先生をお迎えしました。約半数に当たります。経験の浅い会員の皆さんが安心して業務に向き合えるように、グループでの活動を組織しています。まずは、研修です。【教育課題に関する部会】に全会員が所属し、交互に企画・運営に携わることで会員相互の繋がりや主体性を高めています。令和4年度からは、各部会に会長・副会長が顧問として所属し、企画・運営の支援や教育委員会等の渉外業務を担っています。

今年度は、県小中学校教頭会研究大会・下越Aブロック研究大会の主管を務めます。運営は教育課程部をお願いしていますが、分科会の会場設定等は8区の区代表の先生を中心に担っていただき、各区の協力体制や小学校教頭会との連携を図っています。結果、約8名の区ごとの教頭先生方の結束が強まり、コミュニケーションの強化につながっています。

また、県を越えての全国大会や関東甲信越ブロック大会も参集型が多くなりました。当教頭会では、これらの参加にあって1年目・2年目の方々にお願いしています。経験こそが、大きな財産になると捉えているからです。

今年度も、新潟市教育委員会・新潟市中学校校長会よりご指導を頂きながら教頭としての資質・能力の向上に努め、各学校の教職員が健康で生き生きと教育活動に専念することができるように、会員一人一人の決意といたします。



ひすいのように みんなで輝く学校に！

糸魚川市立糸魚川東小学校
角 鹿 康 武

4月、久しぶりの糸魚川市での勤務を楽しみと感
じると同時に、「教頭」という立場で糸魚川東小学
校へ赴任することに緊張していました。

はじめは各種ファイルも探し出せず、たくさん
の文書処理に追われ・・・、正直教頭という仕事を全
うできるのか不安でした。しかし、登校してきた子
どもたちの笑顔に出会い、そして地域の方々の学校に
対する熱い思いを知り、「自分もできることから頑
張ろう！」と気持ちを切り替えることができました。
また、困った時には糸魚川市の先輩教頭先生方から
たくさんのアドバイスをいただき、無事1学期
を終えることができました。

これから自分の気持ちを変えてくれ
た子どもたち、地域のために精一杯教
頭として努めていきます。ご指導、よ
ろしくお願いいたします。



日々精進！

新発田市立二葉小学校
齋 藤 忍

教頭として新発田の地へ赴任してはや5か月。初
めの業務に追われ、とても慌ただしく、あっとい
う間の時間でした。教頭としてふさわしい態度、仕
事ぶりであるかと問われると恥ずかしながら全く自
信がありません。そんな頼りない私のささいな質問
や相談に、いつも丁寧に対応してくださる校長先生
や教職員の皆様には本当に感謝しています。

これだけの時間を過ごし、ようやく少しずつ大切
にすべきことが見えてきました。校長を補佐し助け
ること、子どもたちの健やかな成長を促し笑顔を守
ること、教職員が働きやすい環境を整えること、保
護者や地域の方々との関係を築きつなぐを大切に
することです。

私は、教職員と教職員、学校と保護
者、学校と地域をつなぐ要として行
動力、発信力のある教頭でありたい
と思っています。そのために広い視野
をもち、日々精進していきたいと考
えています。



「毎日笑顔でいるために」

燕市立大関小学校
藤 田 吉 成

教頭として着任し6か月が経った。4月は、様々
な仕事や業務が一気に押し寄せ、すぐに疲労困憊と
なり、精魂尽き果てていた。その中で感じたことは、
やはり「健康第一」である。健康管理は、教頭とし
て当然の職務であるが、毎日心身ともに健康でいる
ことは意外と難しい。そのために以下の点に心掛け
るようにした。

- ① 体力づくり(週末は1時間程度のウォーキング)
…評価○
- ② ストレス解消法(週末はなるべく仕事をせず、
好きなことをする) …評価◎
- ③ イライラしたら、まず大きく深呼吸…評価○

教頭の代わりはない。健康を害すれば、子ども、
教職員、地域のために情熱をもって教頭職に取り組
めない。そのために、健康管理と体力維持に努め、
強靱な精神力を高めていきたい。



教頭会に入会して

五泉市立五泉東小学校
菊 池 直 和

今年度新任教頭として五泉市に赴任しました。ど
うぞよろしく願いいたします。毎月第2木曜日に
開催される「市教頭会」に参加すると、「元気にし
ていますか」「体調はどうですか」と、やさしく声
をかけてくださる先輩方。ありがとうございます。
私にとって教頭会は居心地がとても良いです。

自分の職場に目を向けると、居心地が良い職場に
なるために、改善の余地はまだあると感じています。
自校で勤務する教職員が居心地良く働けるように、
教頭として何ができるかを考えました。その一つが、
一人一人に寄り添うことです。それぞれの健康面や
ワーク・ライフ・バランスの認識など課題はたくさ
んありますが、居心地良く働けるよう、職場環境の
改善を目指します。

最後になりましたが、教頭会で世話になる皆様、
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

随 想



子どもたちに 支えられ生かされ

三条市立上林小学校

堀内 亨

この原稿を書いているのが8月下旬。9月になるというのに外は依然として太陽が強く照りつけ、地面や植物も乾ききっています。今夏の気象はまさに災害級であると思わずにはいられません。おそらくどの学校においても、教育活動への影響があったのではないのでしょうか。

この異常気象、「今年は」では済まないような気がします。「来年も」いや、「来年以降も」という懸念を抱いてしまいます。7月には国連の事務総長が記者会見で、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来した。」とも警告しています。

さらに経済に目を向ければ、物価の高騰が生活を直撃しています。「ガソリン小売価格、全国平均で過去最高値」のニュースも飛び込んできました。

今後、このような自然の猛威や生活の圧迫とどう向き合うか。これらも含めて、他にも様々な課題があります。こんなことを考えるとため息が出るのは私だけでしょうか。

しかし、今日も学校では元気な子どもたちの姿、声があります。子どもたちが私のことを呼ぶ際、「堀内先生！」から「教頭先生！」に呼び方は変わりましたが、そう声をかけてくれるごとに、新しい立場での覚悟と責任を自覚する毎日です。今、何を頑張っているかと問われれば、「とりあえず目の前のこと」と答える日々ですが、元気いっぱいな子どもたちを見ると、忙しさも忘れます。また、「教頭先生、ため息をついている場合じゃないよ。」と、子どもたちから励まされているような気がします。

子どもたちの安全安心を確保し、笑顔溢れる学校となるよう、これからも尽力したいと思います。



「新時代」の 学校について思う

胎内市立築地小学校

宮川 和久

某アニメ映画の主題歌、他、いろいろと使われる「新時代」。力強く好きなフレーズです。今夏の高校野球でも、日程、暑さ対策、脱丸坊主に新時代を見ました。学校教育も新時代バージョンにアップデートするよう、管理職として、監督、指揮しなければと感じました。

GIGAスクール、校務のICT化はウイルス禍で一気に進み、プログラミング、外国語（活動）なども、各校で充実が図られているところです。ここに、ウェルビーイング、ダイバーシティ、STEAM教育、メタバース、ルーブリック評価、等々、次から次へと新しい教育の波が押し寄せています。目指す学校像、児童像の根底を崩さないようにしつつも、これらの要点を知り、自校化を図ろうとすることが大切です。全て新たに行わなくとも、特別活動や福祉教育、人権教育など、今あるものを新しい教育の視点で教科横断的に充実させることができそうです。

加えて、新時代の業務改善。教職員の心身の健康あつての学校教育の改善・充実です。各校でも時間外勤務削減の取組を進めていることと思いますが、「お便りは毎週配付」「絵画・書初めを廊下展示」「一人一授業研究」などの固定観念にとらわれない新時代の働き方を再考し実行したいです。単に楽をするでなく、子どもと共に成長する教師の喜びを原点に、量と質の業務改善を心掛けたいです。

激務で心をすり減らす、そんな教頭のイメージを払拭できるよう、見通しと工夫と努力を大切に、自らの教頭職の業務改善、ワーク・ライフ・バランスの実現に努め、笑顔で生き生きとした教頭像を若手に見せたい、と思う今日この頃です。